

職人さん。

いの町のまちで会いましょう

第12話

2021.12月号

日々の育ちと個性を、 ていねいに見守る。

家庭的保育事業所 あんずのぼっけさん



名前を耳にただけで、ほっと温かくなる「あんずのぼっけ」。2020年11月、いの町中心商店街に開所した、生後6カ月から2歳クラスまでの子どもたちを預かる家庭的保育事業所です。子どもの頃、大事な宝ものをポケットにしまっていて、時には冷たい手をポケットに入れて温めたもの。あんずのぼっけは、温かいポケットのように、いの町在住の子どもたちを預かっています。定員は5名、保育者で施設長の植田奈穂実さんとスタッフの計7名が、きめ細やかに保育しています。スタッフは保育士や幼稚園教諭、特別支援学校養護教諭2級、小学校教諭、栄養士、子育て支援員などの資格や仕事経験を持った、お母さんたちです。皆で週に数日ずつ働き、少人数の子どもをていねいに見守っています。植田さんは長年保育の仕事に携わってきました。身内の介護や子育てなど、フルタイムでは働けないといった時期でも、「少しでも子どもに接する仕事がしたい」「社会で働きたい」と思っ

小さな手形から子どもの笑顔が見えます。



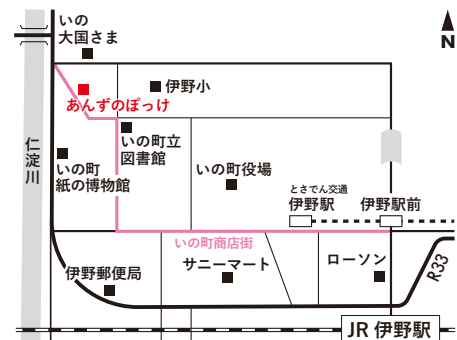
子どもたちの遊びを作品に。

へ送り出すのが目標です。」
あんずのぼっけではご近所への散歩にも毎日のように出かけ、子どもたちは地域にふれて育ちます。小さな公園や、商店街へも。5人という少人数のメリットを活用し、お昼ご飯は家庭的な献立や食材を選び、食育を行っています。いりこだしや昆布だしの味を幼い頃から知るの大切なこと。行事の日などはいわし料理のよくな手のかかる料理も提供します。「せっかくなので、良い食べ物を使おうと。成長に応じて、体も心も強くなって欲しい」と



子どもたちの大好きな読み聞かせ。

の思いです。
連絡帳には、子どものちょっとした動きの変化や表情、その日できるようなったこと、こんなことをしていましたということまで、しっかりと書き留めて保護者に伝えるのが信条です。低年齢ならではの子どもたちの日々の育ちや個性が、記録としても残ります。スタッフ用の連絡記録もあり、全員が、休みの日の分もしっかり読んで理解し、必要なことをしっかりと書くよう徹底しています。「毎朝、保護者の方に出た時にお伝えしています。フルタイムでない分、この共有は真剣そのもの。いつもと違う様子の発見にもつながりますし。」たとえば、子どもがご飯の時に初めてスプーンを持ったことを保護者に伝えるなら、その時の様子、表情を書いて成長の姿を共有しています。「ここがその子にとって人生のスタートであっても、次の場が必ずあります。そこに向けて少しでも成長の手助けができたらと思っています。」



家庭的保育事業所
あんずのぼっけ

いの町 3173
営業 / 8:00 ~ 18:00
休園日 / 日曜、祝日、年末年始など
TEL / 090-2824-0481



プロフィール：2020年11月に開所した家庭的保育事業所。生後6カ月から2歳児のクラスまで、定員は5名。保育に関わる資格や勤務歴、子育て経験のある女性スタッフ7名で受け入れます。